

優しく強い子に！



http://www.minamih.net/  
18・7・8(日)  
南NEWS no 30

### GAMBAる先輩達

7月4日(水)の午後練に来ていたケイチョウ君が「由井中3年生の江成君がサッカー部のキャプテンでGAMBAり、都大会出場を決めました。松林君もCBでGAMBAっています」と話してくれました。由井二小へ行った時、副校長先生が「江成君達はサッカー部でGAMBAっているそうですね」と由井二小卒業の江成君達の活躍を喜んでいました。高田君・米蔵君・小松君達のGAMBAりも耳にすると本当に嬉しくなります。暑さに負けず、この夏も勉強・サッカーにやり抜く強さを発揮してほしいです。……顔見たいな！！



### 澤穂希さん、中村憲剛選手も出場したむさしの招待ワールドカップで活躍した原口元気選手

今年の夏のむさしの招待は尾瀬花咲村で第38回大会になります。大会会場は河口湖・山中湖・尾瀬花咲村と変わってきたのです。原口選手は2003年の夏。むさしの招待河口湖カップ第23回大会に江南南(埼玉・坂戸市)のメンバーとして出場し、決勝で町田JFC(都大会を制し全日本大会に出ること数回)に敗れましたが準優勝の成績を残しています。そしてこの年、夏の全日本少年サッカー大会を見事制し日本一になったのです。体は小さいけれどドリブルの名手で、中心選手として大活躍したのです。江南南は毎年むさしの招待に出ています。何度も優勝しています。今年のむさしの招待で江南南と対戦できるかも知れません。

以下LIVEDOOR NEWSより

2003年の第27回全日本少年サッカー大会で、江南南サッカー少年団の主力選手として優勝に貢献。「江南の鷹」の異名を取った原口元気選手。中学進学と共に浦和レッズジュニアユースに入り、その後、飛び級でユースに昇格して当時日本人最年少でトップチームとの契約しました。今回は小学生の頃から注目を集め、現在は浦和レッズで活躍している原口元気選手の子どもの頃のエピソードを中心にお届けします。



■サッカーだけでなく、外遊びにも夢中だった子どもの頃

——原口選手がサッカーを始めたのは？

「気づいた時にサッカーが好きになっていましたね。確か幼稚園の頃だったと思うのですが。すごく楽しかったけれど、試合に負けると、必ず毎回悔しくて泣いていたことを覚えています」

——どんな子どもでしたか？

「犬と生活をしているといってもいいくらい、いつも犬と一緒に遊んでいたような気がします。また、友達とよく声をかけ合って、夏は昆虫採集に出かけ、クワガタやカブトムシ、バッタなどを獲りに行っていました。学校からの帰り道、小学校の通学路にあった用水路で、あたりが真っ暗になるまで魚やザリガニ獲りをしていました。だから、なかなか家にたどりつかなかった(笑)。学校と家の間には、遊び場がたくさんありましたね」

2018・7・6 朝日新聞 朝刊より

西野監督の下、1996年アトランタオリンピックで「マイアミの奇跡」と言われるブラジルを破ったときの五輪代表キャプテン、前園氏のコメントです。彼も鹿児島実業でエースの名ドリブラーでした。

## ドリブラーの力 試合運びの鍵に



サッカーにおいて、ドリブルは華があるプレーだ。1人がずっとボールを持っているから、観客の視線も集まる。DFをかわしてシュートを決めれば、ゴールはより華やかになる。パスとは違う魅力がある。準々決勝に勝ち上がったチームにも、魅力的なドリブラーがいる。

その視点で見ても、ブラジル-ベルギーは注目だ。しなやかさがあるブラジルFWネイマール、力強いドリブルをするベルギーMFのE・アザール。共通点は、ゆっくりな速度から急にギアを上げて速くするというスピードのメリハリを付けるのがうまいことだ。

決勝トーナメント(T)1回戦でベルギー

に敗れた日本も、FWルカクは無得点に抑えられたが、E・アザールのドリブルは止められなかった。同点にされたゴールは、E・アザールがドリブルで日本選手をかわして上げたクロスからだった。

ネイマールが、決勝T1回戦のメキシコ戦で挙げたゴールもドリブルからだった。数人をひき付けて守備のバランスを崩したところでヒールパスし、折り返しのパスを決めた。

フランスには、19歳のFWエムバペがいる。今大会、対戦相手にとっては一番怖い選手と言えるのではないか。たとえ3人で止められても、スピードあるドリブルで突破するポテンシャルを持っている。

■決勝トーナメント(日時は日本時間)

ウルグアイ	6日23:00
フランス	11日 3:00
ブラジル	7日 3:00
ベルギー	
ロシア	16日 0:00
クロアチア	8日 3:00
スウェーデン	12日 3:00
イングランド	7日23:00

(3位決定戦は14日23時)

8強に残ったチームは、どこもバランスが整っている。ドリブルの一番の魅力は、いくら守備の組織を整えても、1人で局面を打開できることだ。私も現役の頃はそうだったように、ドリブルが武器の選手は前面にそれを押し出していく。ドリブラーがどれだけ力を発揮できるかも、試合の行方を決める鍵になりそうだ。

(元日本代表)

### サッカーの試合で勝つには3つの優位性が必要

- ①数的優位性：ボールの周辺に相手より人数を多く展開して攻めて守る。
- ②位置的優位性：相手の裏やフリーのスペースに入り込む、位置する。
- ③質的優位性：1対1の強さ。アタッキングサードのサイドで1対1に勝ってクロスを入れる力、シュートをする力。

前園氏の言葉にある“ドリブルで突破する力”は決定的な場面をたくさん創ってくれます。③の質的優位性です。歴代の南の先輩達がドリブルの力でたくさんの勝利をもたらしてくれています。南の子どもたち全員がドリブル・ターンの名手になってほしいですね。

